

『私の恩師』

東京都

東京櫛剣士会

中学2年 落合寧音

私には大好きな先生がいます。その先生との思い出は数え切れない程あります。

一つは剣道の合宿です。打ち込み稽古になったとき私は、疲れ果ててしまいました。しかし、その先生は私に

「もっと声を出せ！」

と、厳しく注意されました。稽古が終わった後、先生は私に

「寧音の面の打ちは試合の時、たくさん使えるぞ。」

と、褒めてくれました。先生はとても厳しい先生ですが、最後には必ず褒めてくれます。

それに、今までそんな事を言われたのは初めてで、とても嬉しくなりました。

そんな先生との稽古はまだまだ続くと思っていました。けれど、先生は居なくなってしまうのです。外国に移住する事になったのです。私はもっともっと、厳しい指導をしてもらいたかったし、少しでも剣道を上手になって、もっともっと褒められたかったし、もっともっと、一緒に稽古をしたかったです。これから先生の指導を受けられなくなるのは、すごく悲しいです。けれど、次、先生と会う時は今よりも強くなるという目標が出来ました。そして、先生から一本取りたいです。

そして、お別れ会の日に先生が言った言葉が忘れられません。「中学生として下級生をまとめたり、お手本になることは難しい事だけど、お前なら出来る。そして、得意な面の打ちを試合に活かして、今よりもっと上を目指せ。」

と、言ってくれました。私はこの言葉を胸に、今まで以上に稽古に励んで、下級生のお手本となり、試合では得意の面打ちでどんどん強くなろうと心に決めました。たとえ、先生と一緒に稽古が出来なくなっても、先生から教わったことを忘れず、今よりもっと上を目指します。またいつか先生と稽古をする時に、強くなった姿を、見せたいです。

そんな先生は私にとって恩師です。